

平成 23 年 3 月 30 日

2010 年度「学生による授業評価アンケート」結果報告

2010 年度名古屋経済大学 FD 委員会

1. 全学的な「学生による授業評価アンケート」実施の経過

名古屋経済大学では、2005 年度から全学的な「学生による授業評価アンケート」を実施することにした。

(1) 2005 年度の「講義」科目対象

2005 年度から 2 年の期間をかけて、講義、演習、実技、実習科目を対象に授業評価アンケートを実施することにした。

2005 年度は、講義科目を対象に、それぞれの教員の担当科目の中で 1 科目を選択し、授業評価アンケートを実施した。総授業数 972 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、71 科目であり、実施率は 7.30%であった。総受講生数 36,800 人の中で、実施受講生数は 5,554 人であり、有効回答数は 975 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、17.55%であった。

(2) 2006 年度の「演習、実技、実習」科目対象

2006 年度は、演習、実技、実習科目を対象に、それぞれの教員の担当科目の中で 1 以上の科目について、授業評価アンケートを実施した。総授業数 971 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、374 科目であり、実施率は 38.52%であった。総受講生数 36,781 人の中で、実施受講生数は 7,696 人であり、有効回答数は 4,588 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、59.62%であった。

(3) 2007 年度のすべての「講義、演習、実技、実習」科目対象

2007 年度は、2005 年度と 2006 年度の授業評価アンケートの実施率があまり高くなかったため、開講されているすべての科目を対象として、授業評価アンケートを実施することにした。2007 年度前期開講の半期科目については、7 月の第 1 週に、2007 年度後期開講の半期科目と通年科目については、12 月の第 1 週と第 2 週に実施した。2007 年度前期の授業評価アンケートについては、総授業数 291 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、283 科目であり、実施率は 97.25%であった。総受講生数 15,299 人の中で、実施受講生数は 15,081 人であり、有効回答数は 9,362 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、62.08%であった。

2007 年度後期の授業評価アンケートについては、総授業数 601 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、594 科目であり、実施率は 98.84%であった。総受講生数 21,843 人の中で、実施受講生数は 21,572 人であり、有効回答数は 12,406 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、57.51%であった。

(4) 2008 年度の演習（ゼミ、卒業論文）、学外実習を除いたすべての「講義、演習、

実技、実習」科目対象

2008年度は、演習群の科目（ゼミ、卒業論文）、学外実習の科目を除いたすべての科目を対象とした。

2008年度前期の授業評価アンケートについては、総授業数 310 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、310 科目であり、実施率は 100%であった。総受講生数 15,744 人の中で、実施受講生数は 15,744 人であり、有効回答数は 10,393 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、66.01%であった。

2008年度後期の授業評価アンケートについては、総授業数 397 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、395 科目であり、実施率は 99.50%であった。総受講生数 20,116 人の中で、実施受講生数は 20,098 人であり、有効回答数は 11,073 であった。有効回答数を実施受講生数で割った対象実施率は、55.10%であった。

(5) 2009年度の演習（ゼミ、卒業論文）、学外実習を除いたすべての「講義、演習、実技、実習」科目対象

2009年度は、2008年度と同様に演習群の科目（ゼミ、卒業論文）、学外実習の科目を除いたすべての科目を対象とした。2009年度の質問項目は、2008年度の質問項目のうち、次の点が加筆・修正し改善されている。

1. 質問1の回答の出席率を現状の出席状況に合わせて、2.かなり出席（70%から80%に修正）、3.どちらともいえない（50%から70%に修正）、4.あまり出席していない（30%から50%に修正）、5.ほとんど出席していない（10%から30%に修正）とした。

2. 新たに質問3と質問Dにシラバスに関する質問を加えた。

3. 質問9のうちの「板書」を削除した。

4. 質問10を実態に合わせて「板書やスクリーン・モニターは見やすく示されていますか」に修正した。

5. 質問12の回答のうち「黒板の字が読みにくい」を削除した。

6. 新たに質問13に自由記述（「良かった点」「改善すべき点」）を設けた。

以上のように、2009年度の質問項目にはシラバスに関する質問（質問3と質問D）と自由記述欄（質問13）を加えている。質問項目AからCは、学生の属性であり集計処理に際して利用した項目である。2009年度からの評価数値が変更されている。2008年度までは、5段階の回答番号にあわせた回答1が一番良く、回答5が最下位としていたため、平均値の値が小さいほどよい結果を表すこととなっている。この方法はわかりにくいこともあり、数値が高いほどよい結果を表すような計算のポイント制に改めた。

2009年度は回答1…5ポイント、回答2…4ポイント、回答3…3ポイント、回答4…2ポイント、回答5…1ポイントとして計算している。その結果、数値が5に近いほどよい結果を表し評価が高く、1に近いほど評価が低くなる。平均値が2008年度結果と逆の評価になるので注意が必要である。

2009年度の前期の授業評価アンケートについては、総授業数 306 科目の中で、授業

評価アンケートの実施授業数は、300 科目であり、実施率は 98.0%であった。総受講生数 14,436 人中、実施受講生数は 14,190 人であり、有効回答数は 8,843 であった。有効回答数を実施受講生数で割った実施率は、62.3%であった。

2009 年度の後期の授業評価アンケートについては、総授業数 402 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、395 科目であり、実施率は 98.3 パーセントであった。総受講生数 18,074 人中、実施受講生数は 17,948 人であり、有効回答数は 9,817 であった。有効回答数を実施受講生数で割った実施率は、54.7%であった。

2. 2010 年度の全学的な「学生による授業評価アンケート」実施方法

(1) 2010 年度授業評価アンケートの質問項目

アンケートの質問項目は、次の通りである。

1. あなたは、この授業に出席していますか。
2. あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか。
3. この授業は、シラバスにそって行われていますか。
4. 教員は、授業時間を守っていますか。
5. 授業内容は、わかりやすいですか。
6. 教員の声は聞きとりやすいですか。
7. 授業の速さや進め方は、適切ですか。
8. 教員の教え方には、熱意が感じられますか。
9. 教科書、配布資料が活用されていますか。
10. 板書やスクリーン・モニターは見やすく示されていますか。
11. 一部の学生の私語、携帯電話、遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか。
12. あなたは、この授業について不満に思っていることがありますか、次の中から 3 項目以内で選んで下さい。
 - 1 専門用語がむずかしい
 - 2 授業がつまらない
 - 3 授業内容をプリントにしてほしい
 - 4 受講人数が多すぎる
 - 5 休講が多い
 - 6 開講曜日や時限が悪い
 - 7 学生の取り扱いが不平等である
 - 8 教員がいばったり、学生を見くだす
 - 9 教科書が高い又は教科書を買っても使用しない
 - 10 授業のための施設、設備に満足できない
13. その他、この授業について「良かった点」「改善すべき点」があれば記入して下さい。

A あなたの所属している学部・学科はどこですか。

1. 経済学部・現代経済学科
2. 経営学部・経営学科
3. 法学部・法学科
4. 人間生活学部・教育保育学科・幼児保育学科
5. 人間生活学部・管理栄養学科

B あなたは、何年度入学ですか。

1. 2010 年度
2. 2009 年度
3. 2008 年度
4. 2007 年度
5. 2006 年度
6. 2005 年度
7. 2004 年度
8. 科目等履修生・研究生

C あなたは、何年生ですか。

1. 1 年生
2. 2 年生
3. 3 年生
4. 4 年生
5. その他

D あなたは、この授業のシラバスを読みましたか。

1. はい
2. いいえ

以上の質問項目の1から11までについては、5段階評価で回答をする。

(2) 2010年度の全学的な「学生による授業評価アンケート」実施率

2010年度の前期の授業評価アンケートについては、総授業数 324 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、265 科目であり、実施率は 81.8%であった。総受講生数 16,555 人中、実施受講生数は 15,721 人であり、有効回答数は 7,936 であった。有効回答数を実施受講生数で割った実施率は、50.5%であった。

2010年度の後期の授業評価アンケートについては、総授業数 281 科目の中で、授業評価アンケートの実施授業数は、271 科目であり、実施率は 96.4 パーセントであった。総受講生数 14,099 人中、実施受講生数は 13,375 人であり、有効回答数は 8,275 であった。有効回答数を実施受講生数で割った実施率は、61.9%であった。

3. 2010 年度授業評価アンケートの集計結果

(1) 学部別有効回答数（実施率）

学部学科ごとの有効回答数（実施率）は、次の通りである。

教員所属別 前期 後期

経済学部・現代経済学科 1,501(18.14%) 1,564(19.71%)

経営学部・経営学科 2,028(24.51%) 1,699(21.41%)

法学部・法学科 1,655(20.00%) 1,662(20.94%)

人間生活科学部 2,769(33.46%) 2,694(33.95%)

教育保育学科・幼児保育学科 1,320(15.95%) 2,268(15.63%) (学部の内数)

管理栄養学科 1,449(17.51%) 1,454(18.32%) (学部の内数)

短期大学部・保育科・キャリアデザイン学科 282(3.41%) 125(1.58%)

その他(*) 40(0.48%) 192(2.42%)

(*)その他の中は、前期：大学院所属のデータ。後期：全学共通及び大学院所属のデータ。

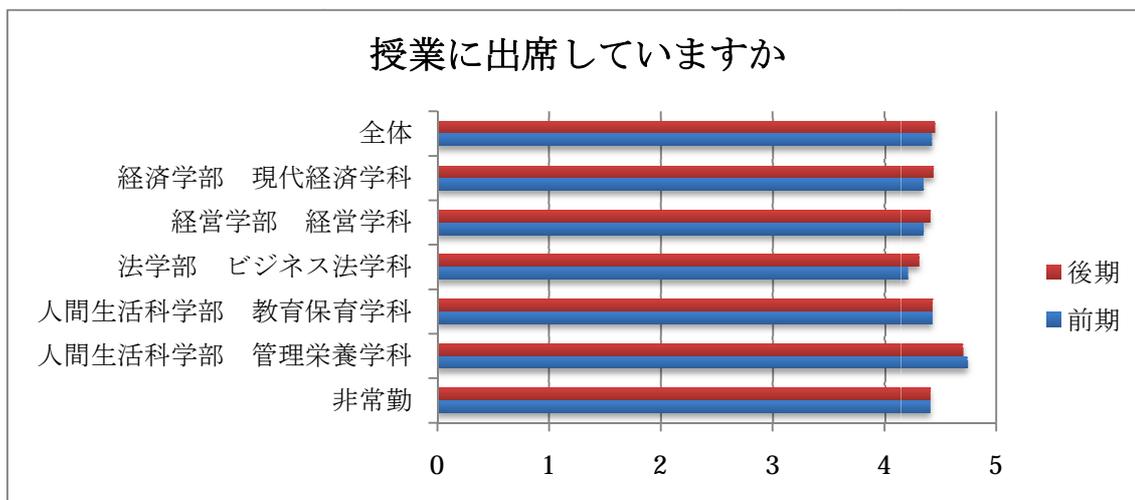
(2) アンケートの質問項目ごとの学部別分析（教員所属別）

1. あなたは、この授業に出席していますか。

- 1 ほとんど出席している (出席率：90%以上)
- 2 かなり出席している (出席率：80%以上)
- 3 どちらともいえない (出席率：70%以上)
- 4 あまり出席していない (出席率：50%以上)
- 5 ほとんど出席していない (出席率：30%以上)

平均値

	前期	後期
全体	4.42	4.45
全学共通		4.55
経済学部	4.35	4.44
経営学部	4.35	4.41
法学部	4.21	4.31
人間生活科学部・教育保育学科	4.43	4.43
人間生活科学部・管理栄養学科	4.74	4.70
非常勤	4.41	4.41



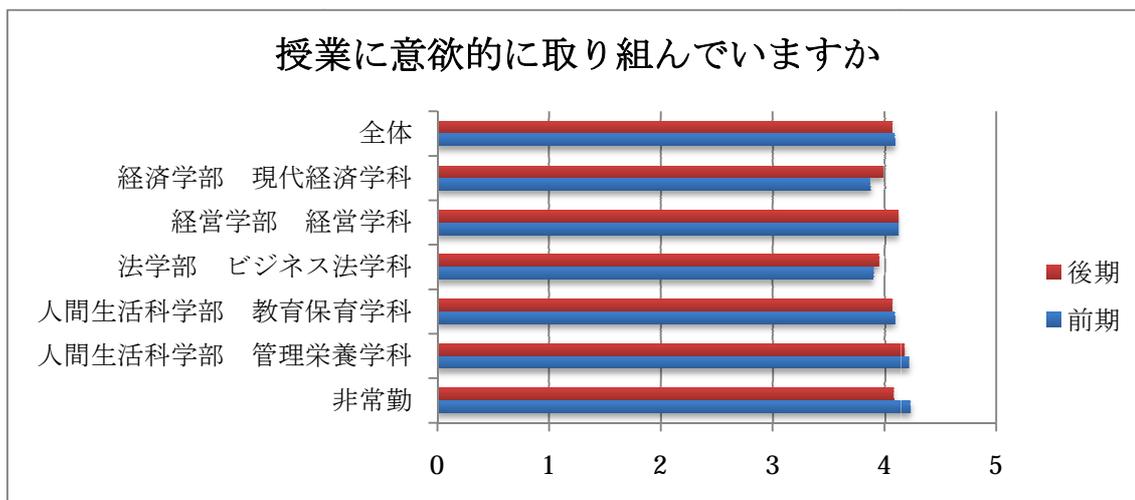
出席については、人間生活科学部管理栄養学科の平均値が他学部・学科に比べて前期 4.74、後期 4.70 と高く、出席状況がよい。人間生活学部の管理栄養学科・教育保育学科ともに、免許や資格に関係する科目や必修科目が多く、固定したクラス単位の授業開講が影響していると思われる。また、経済学部・経営学部・法学部ともに、前期より後期の平均値が高い。進級や卒業を意識してのことではないかと推測される。

2. あなたは、この授業に意欲的に取り組んでいますか。

- 1 非常に意欲的である
- 2 かなり意欲的である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり意欲的でない
- 5 全く意欲的でない

平均値

	前期	後期
全体	4.09	4.07
全学共通		4.18
経済学部	3.87	3.99
経営学部	4.12	4.12
法学部	3.90	3.95
人間生活科学部・教育保育学科	4.09	4.07
人間生活科学部・管理栄養学科	4.22	4.18
非常勤	4.23	4.08



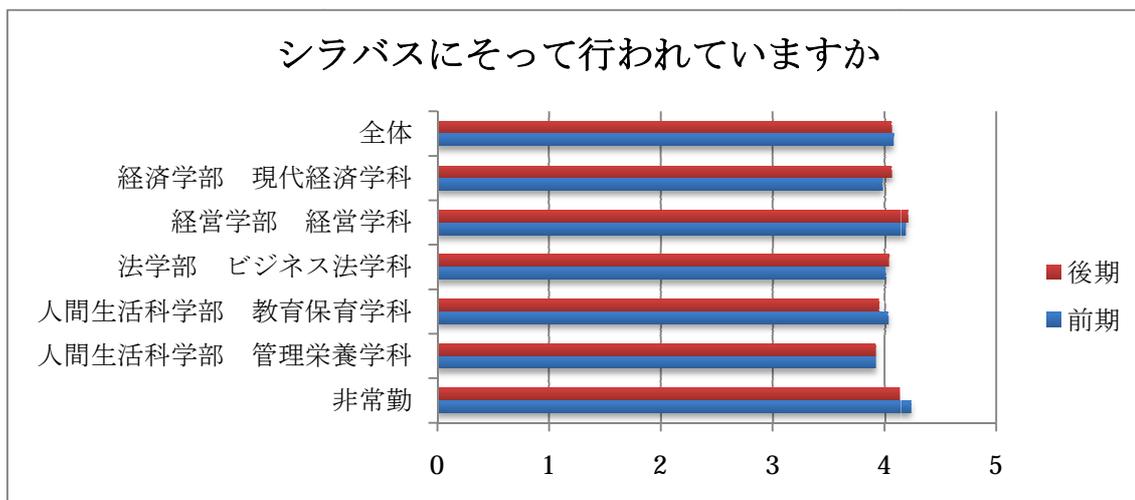
授業への意欲は、どの学部も平均値 4.0 前後であり、「かなり意欲的である」傾向を示す。人間生活科学部を除き、後期には若干高くなっている傾向がみられる。

3. この授業は、シラバスにそって行われていますか。(2009 年度より追加)

- 1 行われている
- 2 ほぼ行われている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり行われている
- 5 全く行われていない

平均値

	前期	後期
全体	4.08	4.06
全学共通		3.85
経済学部	3.98	4.06
経営学部	4.19	4.21
法学部	4.01	4.04
人間生活科学部・教育保育学科	4.03	3.95
人間生活科学部・管理栄養学科	3.92	3.92
非常勤	4.24	4.13



シラバスについては、2009 年度より新設した質問項目である。どの学部も平均値 4.0 前後であり、シラバスにそって「ほぼ行われている」としている。

この設問 3 に関しては設問 D「シラバスを読みましたか」との関連をみるため、回答「はい」と「いいえ」とのクロス集計が実施されている。質問 3 と質問 D とのクロス集計の結果は、次の通りである。

・前期の場合 (%)

質問 3	質問 D	経済学部	経営学部	法学部	人間生活科学部 教育保育学科	人間生活科学部 管理栄養学科
回答 1	はい	54.04	56.31	51.62	57.65	57.38
	いいえ	21.96	26.91	21.38	28.90	26.33
回答 2	はい	30.39	27.95	34.02	30.59	27.87
	いいえ	24.64	29.59	21.38	27.06	23.12
回答 3	はい	12.62	12.37	12.81	9.41	11.24
	いいえ	48.03	37.75	52.29	41.06	47.64
回答 4	はい	1.59	1.26	0.78	1.18	1.41
	いいえ	1.42	2.54	1.57	0.80	1.41
回答 5	はい	1.23	1.68	0.65	1.18	2.11
	いいえ	2.84	2.28	2.29	1.03	0.50

・後期の場合 (%)

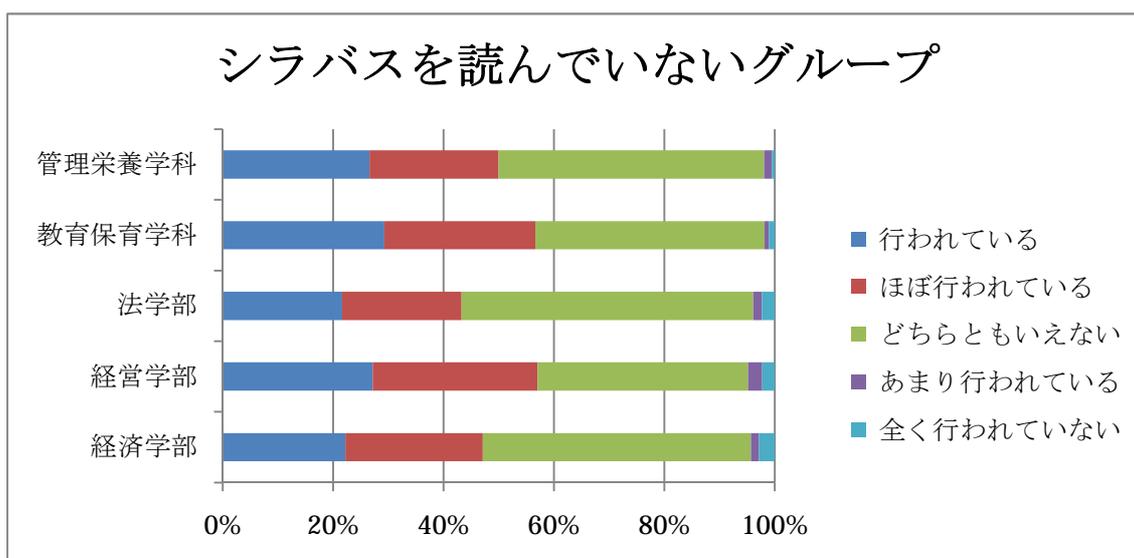
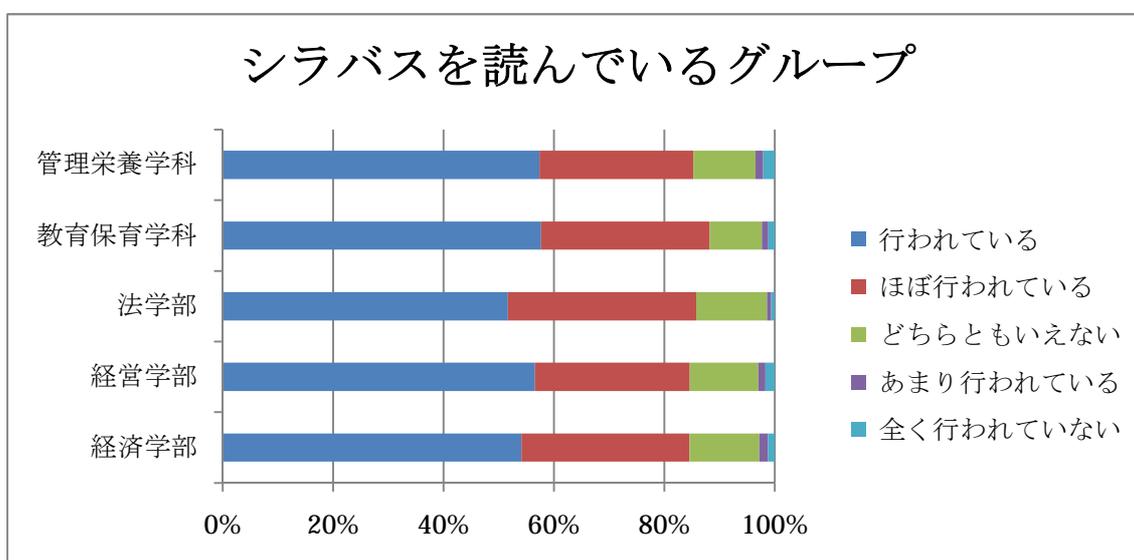
質問 3	質問 D	経済学部	経営学部	法学部	人間生活科学部 教育保育学科	人間生活科学部 管理栄養学科
回答 1	はい	54.11	56.34	48.66	50.00	56.52
	いいえ	23.64	35.02	23.04	25.26	22.43
回答 2	はい	29.64	29.20	35.98	33.94	31.30
	いいえ	28.10	22.75	25.44	25.26	22.63

回答3	はい	13.10	11.70	13.61	13.80	10.43
	いいえ	42.64	37.64	47.84	46.71	53.62
回答4	はい	1.42	1.57	0.62	1.13	0.65
	いいえ	1.94	1.47	0.80	0.53	0.41
回答5	はい	1.22	0.98	1.13	0.90	1.09
	いいえ	2.91	1.64	1.76	0.92	0.31

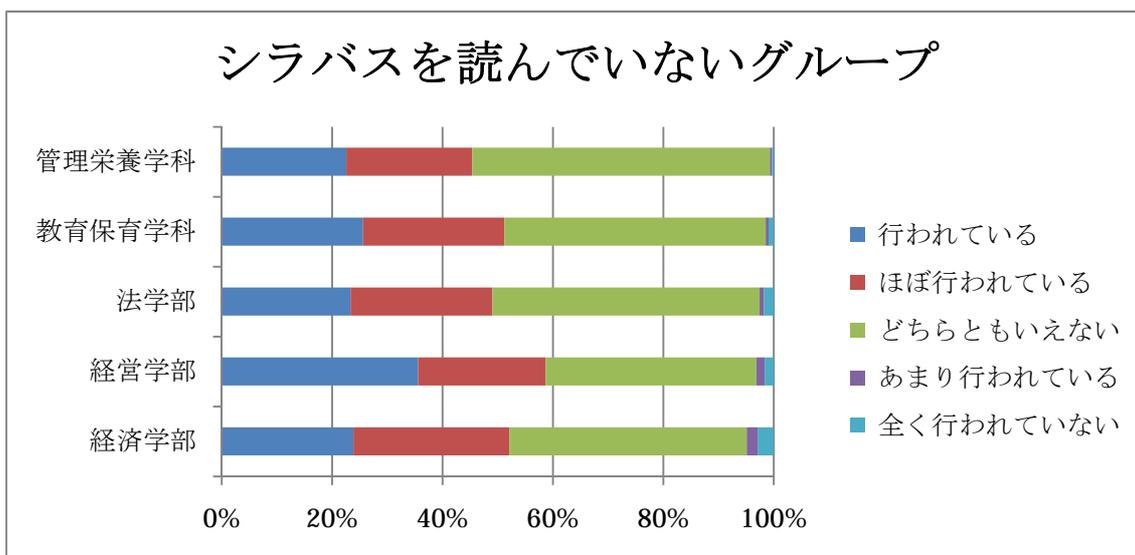
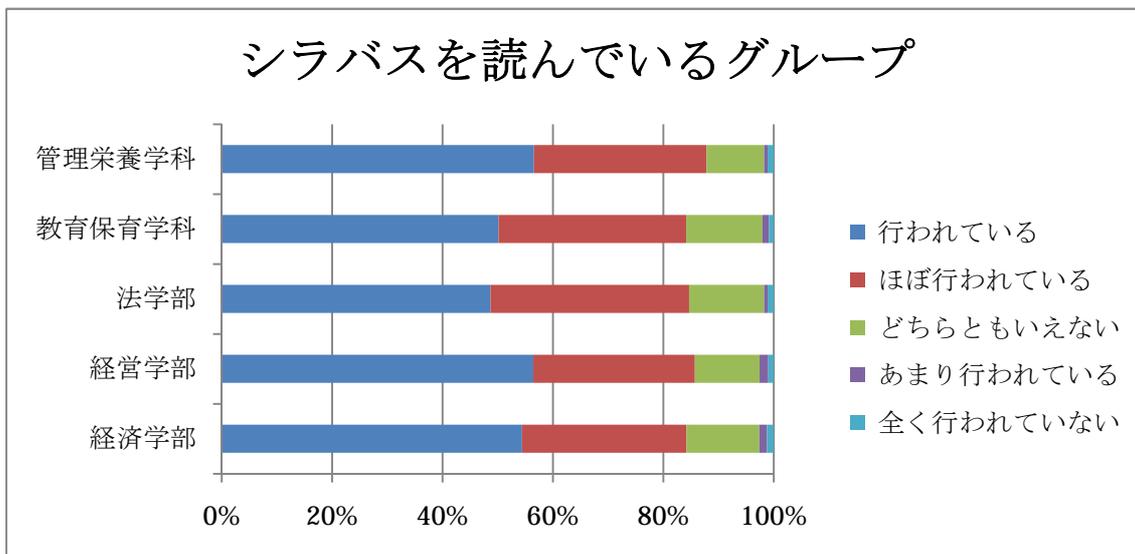
(*)本データの母数には、大学院、短期大学部、大学共通の数字も含む。

また、質問Dには「はい」「いいえ」以外に「回答なし」の場合もあるが、回答なしの分布は表には出していない。

<前期>



<後期>



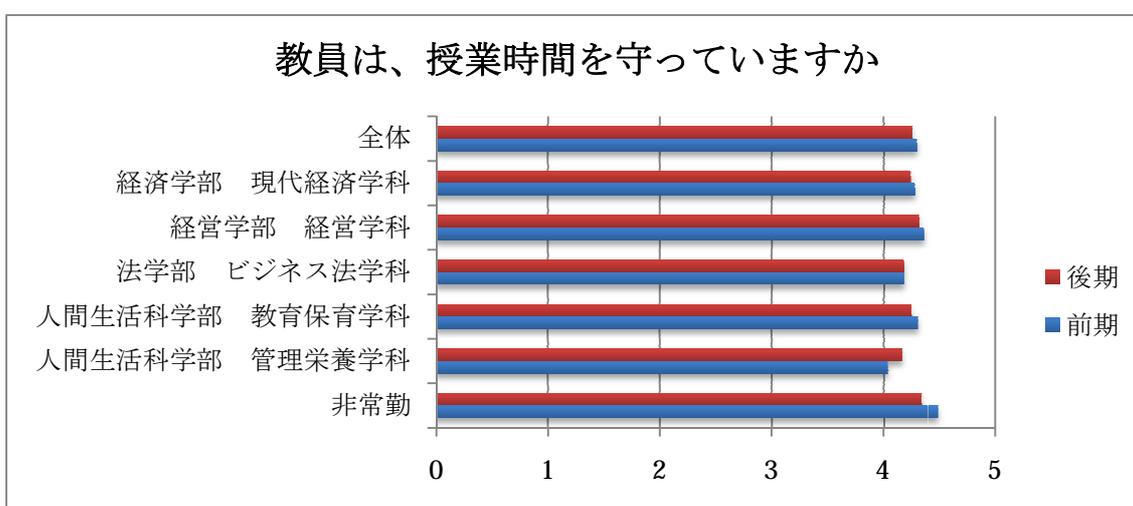
質問3について、質問Dとのクロス集計の結果、前後期ともに全学部において「シラバスを読んでいる」50%以上の学生は授業が「シラバスにそって行われている」と回答し、30%前後の学生が「ほぼ行われている」と回答している。また、「シラバスを読んでいない」40%前後の学生は、「どちらともいえない」の回答となっている。しかし、「シラバスを読んでいない」にもかかわらず、どの学部にも授業が「シラバスにそって行われている」や、「ほぼ行われている」と矛盾した回答の学生が21~30%もみられる。この結果は、シラバスに対する認識不足や、アンケート項目のうち、先に質問3に回答し、すべて質問の最後にシラバスを読んだかどうかの質問順のため、矛盾を修正することなく回答していると思われる。

4. 教員は、授業時間を守っていますか。(2008 年度質問3)

- 1 非常に守っている
- 2 かなり守っている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり守っていない
- 5 全く守っていない

平均値

	前期	後期
全体	4.30	4.26
全学共通		4.28
経済学部	4.28	4.24
経営学部	4.36	4.32
法学部	4.18	4.18
人間生活科学部・教育保育学科	4.31	4.25
人間生活科学部・管理栄養学科	4.04	4.17
非常勤	4.49	4.34



授業時間を守っているかについては、非常勤がもっとも高く、どの学部も平均値 4.0 以上であり、ほとんどの教員が「授業時間を守っている」といえる。

5. 授業内容は、わかりやすいですか。(2008 年度質問4)

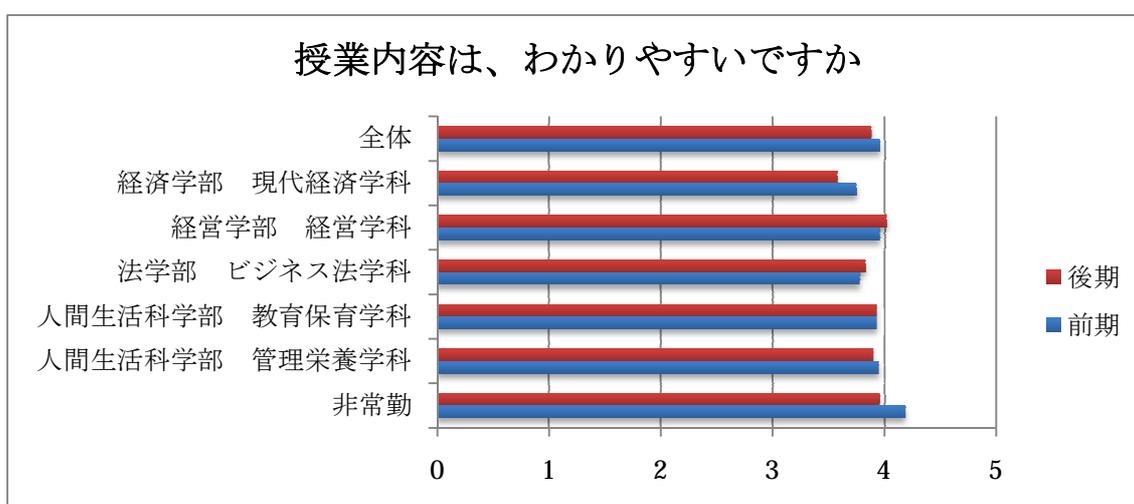
- 1 非常にわかりやすい
- 2 かなりわかりやすい
- 3 どちらともいえない
- 4 かなりわかりにくい

5 非常にわかりにくい

授業内容については、どの学部も「かなりわかりやすい」の平均値 **4.0** に近い。しかし、質問 12 の「専門用語がむつかしい」、「授業がつまらない」との回答がいずれも **30%**前後を示す結果からみて、質問 5 と 12 のクロス集計などによって、わかりにくい内容の詳細を検討することも必要である。

平均値

	前期	後期
全体	3.96	3.88
全学共通		3.98
経済学部	3.75	3.58
経営学部	3.96	4.02
法学部	3.78	3.83
人間生活科学部・教育保育学科	3.93	3.93
人間生活科学部・管理栄養学科	3.95	3.90
非常勤	4.19	3.96

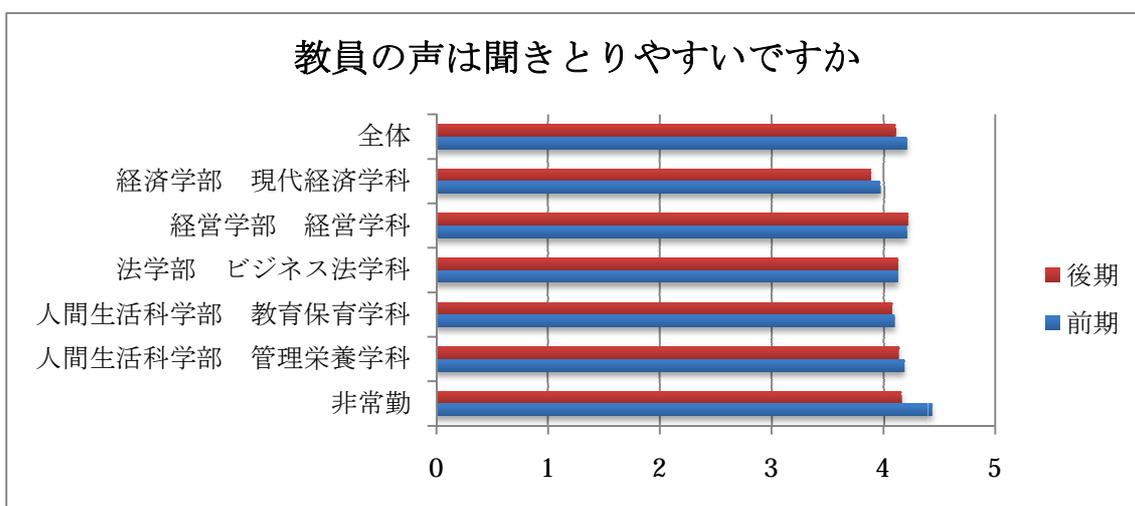


6. 教員の声は聞きとりやすいですか。(2008 年度質問5)

- 1 非常に聞き取りやすい
- 2 かなり聞き取りやすい
- 3 どちらともいえない
- 4 かなり聞き取りにくい
- 5 非常に聞き取りにくい

平均値

	前期	後期
全体	4.21	4.11
全学共通		4.24
経済学部	3.97	3.89
経営学部	4.21	4.22
法学部	4.13	4.13
人間生活科学部・教育保育学科	4.10	4.08
人間生活科学部・管理栄養学科	4.19	4.14
非常勤	4.44	4.16



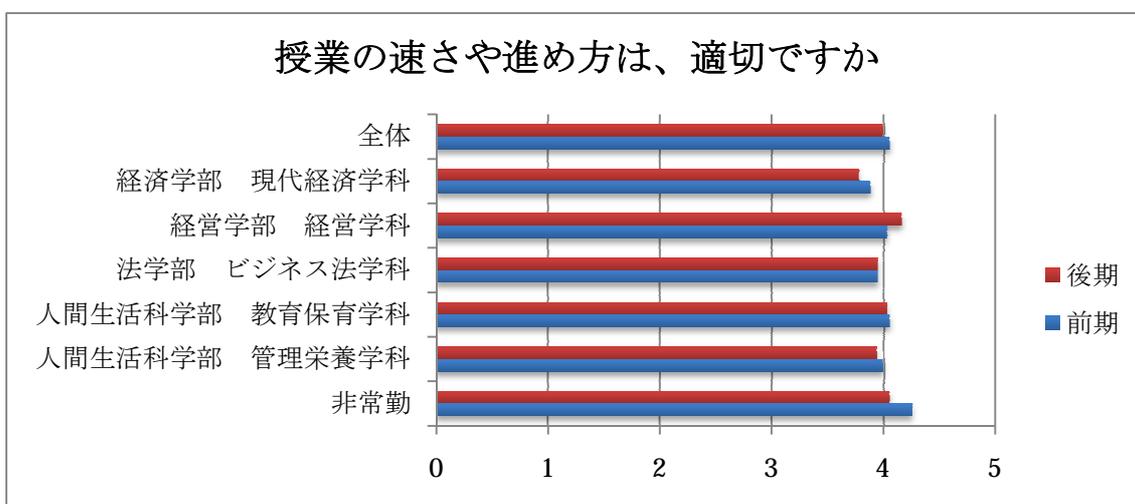
教員の声については、どの学部も「かなり聞き取りやすい」の平均値4前後をしめす。また、経営学部および非常勤は、この平均値が若干高くなっている。

7. 授業の速さや進め方は、適切ですか。(2008 年度質問6)

- 1 非常に適切である
- 2 かなり適切である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり適切でない
- 5 全く適切でない

平均値

	前期	後期
全体	4.05	3.99
全学共通		4.02
経済学部	3.88	3.78
経営学部	4.03	4.16
法学部	3.95	3.95
人間生活科学部・教育保育学科	4.05	4.03
人間生活科学部・管理栄養学科	3.99	3.94
非常勤	4.26	4.05



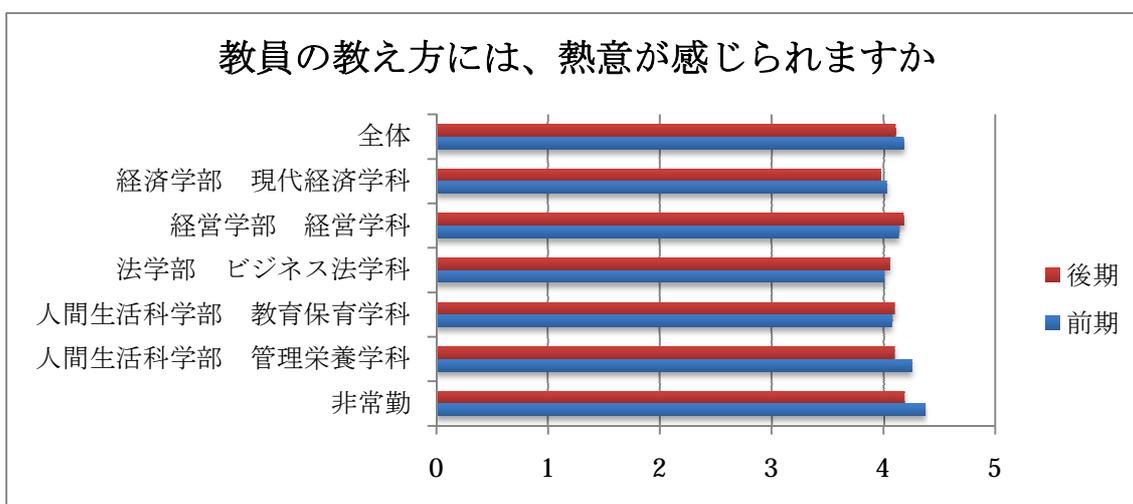
授業の速さや進め方については、どの学部も「かなり適切である」の平均値 4 前後をしめし、非常勤と経営学部では、この平均値が若干高くなっている。

8. 教員の教え方には、熱意が感じられますか。(2008 年度質問 7)

- 1 非常に感じられる
- 2 かなり感じられる
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり感じられない
- 5 全く感じられない

平均値

	前期	後期
全体	4.18	4.11
全学共通		4.16
経済学部	4.03	3.98
経営学部	4.14	4.18
法学部	4.01	4.06
人間生活科学部・教育保育学科	4.08	4.10
人間生活科学部・管理栄養学科	4.26	4.10
非常勤	4.37	4.19



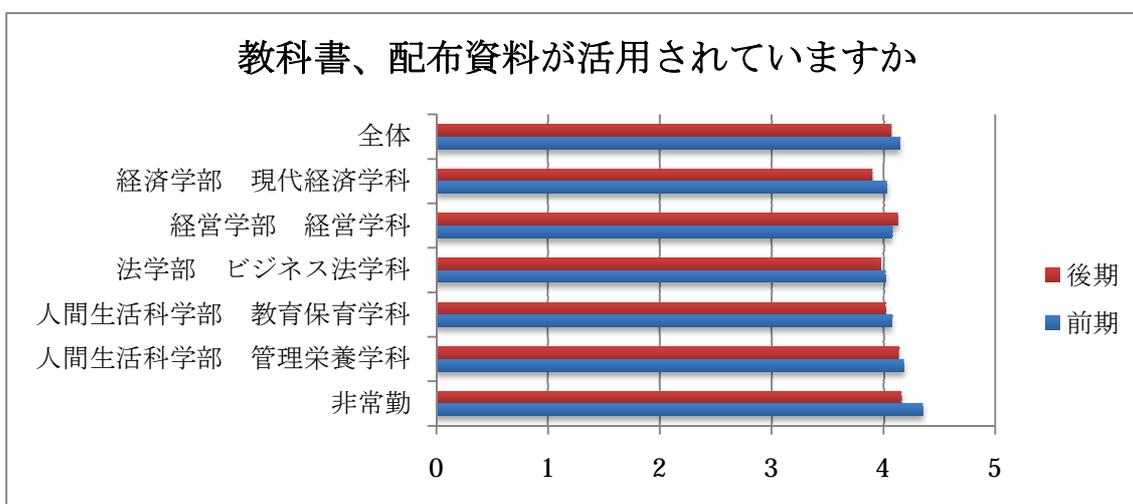
教員の教え方の熱意については、平均値 4 前後をしめし、どの学部も熱意がかなり感じられている。人間生活科学部管理栄養学科および非常勤の前期に、この平均値が若干高くなっている。

9. 教科書、配布資料が活用されていますか。(2008 年度質問8)

- 1 非常に活用されている
- 2 かなり活用されている
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり活用されていない
- 5 全く活用されていない

平均値

	前期	後期
全体	4.15	4.07
全学共通		4.38
経済学部	4.03	3.90
経営学部	4.08	4.13
法学部	4.02	3.98
人間生活科学部・教育保育学科	4.08	4.02
人間生活科学部・管理栄養学科	4.18	4.14
非常勤	4.35	4.16



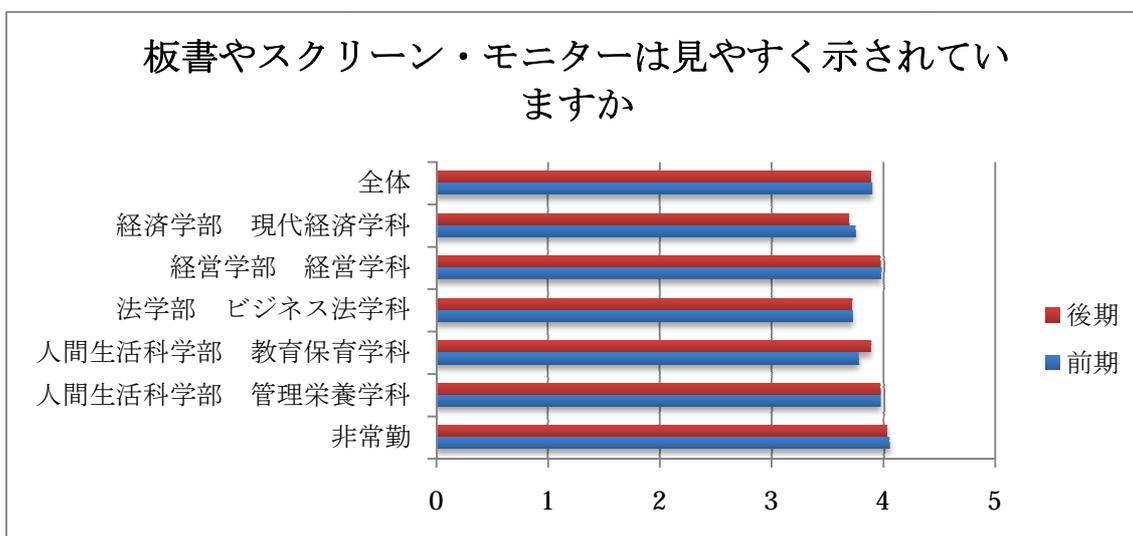
教科書、配付資料の活用については、平均値 4 前後を示し、どの学部も「かなり活用されている」。特に前期の非常勤と後期の全学共通の平均値が高い。

10. 板書やスクリーン・モニターは見やすく示されていますか。(2008 年度質問9修正)

- 1 非常に見やすい。
- 2 かなり見やすい
- 3 どちらともいえない
- 4 かなり見にくい
- 5 非常に見にくい

平均値

	前期	後期
全体	3.90	3.89
全学共通		
経済学部	3.75	3.69
経営学部	3.98	3.97
法学部	3.73	3.72
人間生活科学部・教育保育学科	3.78	3.89
人間生活科学部・管理栄養学科	3.97	3.97
非常勤	4.05	4.03



2008 年度は「視聴覚機器（ビデオ、OHP、プロジェクターなど）が活用されていますか」の質問内容であったが、2009 年度以降、視聴覚機器が使用できない教室のため、「板書やスクリーン・モニター」とした。非常勤および後期の全学共通が若干高くなっている。

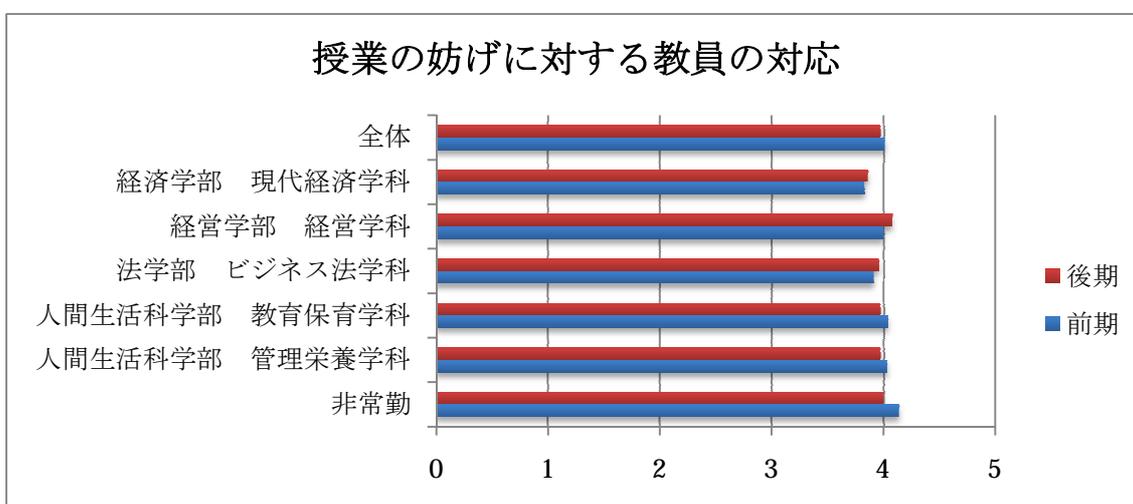
11. 一部の学生の私語、携帯電話、遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切ですか。

(2008 年度質問 10)

- 1 非常に適切である
- 2 かなり適切である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり適切でない
- 5 全く適切でない

平均値

	前期	後期
全体	4.01	3.97
全学共通		3.86
経済学部	3.83	3.86
経営学部	4.00	4.08
法学部	3.91	3.96
人間生活科学部・教育保育学科	4.04	3.97
人間生活科学部・管理栄養学科	4.03	3.97
非常勤	4.14	4.00



授業の妨げに対する教員の対応は、どの学部も平均値 4 前後であり、対応が「かなり適切である」としている。

12. あなたは、この授業について不満に思っていることがありますか、次の中から 3 項目以内で選んで下さい。(2008 年度質問 11)

- 1 専門用語がむづかしい。
 - 2 授業がつまらない。
 - 3 授業内容をプリントにしてほしい。(2008 年度回答 4)
 - 4 受講人数が多すぎる。(2008 年度回答 5)
 - 5 休講が多い。(2008 年度回答 6)
 - 6 開講曜日や時限が悪い。(2008 年度回答 7)
 - 7 学生の取り扱いが不平等である。(2008 年度回答 8)
 - 8 教員がいばったり、学生を見くだす。(2008 年度回答 9)
 - 9 教科書が高い又は教科書を買っても使用しない。(2008 年度回答 10)
 - 10 授業のための施設、設備に満足できない。(2008 年度回答 11)
- (2008 年度回答 3「黒板の字が読みにくい」廃止)

質問 12 の 3 つ以内の回答 (%) の結果は、次の通りである。

	経済学部		経営学部		法学部		教育保育学科		管理栄養学科	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
回答 1	20.71	23.42	25.70	23.73	17.59	20.15	10.57	11.28	13.65	13.45
回答 2	15.57	16.14	13.80	12.57	16.22	12.75	12.08	9.41	6.91	8.18
回答 3	8.81	7.50	7.04	6.07	4.96	5.66	4.46	5.53	2.67	4.91
回答 4	4.36	2.58	4.09	4.21	3.40	2.68	4.14	3.09	2.26	3.15
回答 5	0.83	1.18	0.92	0.68	2.36	1.29	0.66	1.22	2.32	0.55
回答 6	2.85	2.68	2.60	2.10	2.93	2.78	1.51	1.36	2.85	2.42
回答 7	1.97	2.07	1.99	1.91	3.36	2.23	1.58	0.86	5.23	2.12
回答 8	3.01	2.18	2.68	2.15	4.26	2.98	1.71	1.22	6.33	1.94
回答 9	2.39	0.61	1.84	1.27	2.17	2.23	1.31	2.16	0.75	0.73
回答 10	3.22	3.03	2.56	2.64	3.22	1.19	1.18	1.44	3.14	2.91

授業への不満については、前後期とも一番多いのは回答 1 の「専門用語がむづかしい」である。その他、回答 2 の「授業がつまらない」、回答 3 の「授業内容をプリントにしてほしい」の順である。「専門用語がむづかしい」や「授業がつまらない」とする学生については、他の質問項目とのクロス集計によってその関連を検討することも必要であろう。(昨年度ママ)

13. その他、この授業について「良かった点」「改善すべき点」があれば記入して下さい。(2009 年度新設)

この質問への回答は、設定された自由記述欄に記入する。学生の生の声を知るために 2009 年度に新設された。授業について「良かった点」や「改善すべき点」を自由に記述する。

この質問項目 13 の処理については、担当教員が授業の現状を把握し、授業の改善に役立てる「結果の考察」（現状の分析・改善点）を書く際に、データ処理された質問 1 から 12 までのアンケート結果の数値と合わせて参考資料として生かされる。担当教員がこのアンケートの自由記述をみることができるようするために、アンケート実施後のすべての用紙は、データ処理されたアンケート結果の資料と一緒に科目ごと各教員に渡っている。各教員の処理にまかせている自由記述の全体としての処理方法については、今後検討しなければならない。（前年度ママ）

D あなたは、この授業のシラバスを読みましたか。

1. はい
2. いいえ

設問 D の回答（％）の結果は、次の通りである。

	経済学部		経営学部		法学部		教育保育学科		管理栄養学科	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
はい	9.86	12.41	14.36	12.82	9.34	12.22	5.14	5.57	5.16	5.80
いいえ	7.65	12.82	9.03	7.70	10.01	7.88	10.54	9.58	12.02	12.36

(*)本データの母数には、大学院、短期大学部、大学共通の数字も含む。

また、質問Dには「はい」「いいえ」以外に「回答なし」の場合もあるが、回答なしの結果は表には出していない。

授業のシラバスを読んだかについては、経済・経営・法学部ともに 10%前後の学生が「はい」あるいは「いいえ」と回答している。それ以外の 8 割近くが回答をしていない。また、設問 3 の「この授業は、シラバスにそっておこなわれていますが」との関連については、シラバスを読んでいないのかかわらず「シラバスにそって行われている」と矛盾する回答をしめしている。

4. 検討課題

2010 年度の年度前期及び後期の授業評価アンケートについて、次のことを検討課題として指摘する。

(1) ゼミを対象にした授業評価アンケートの実施

2008 年度からの検討課題であるゼミを対象にした授業評価アンケートの実施についてである。FD 委員会ワーキンググループにおける 2 回の検討の結果、現状においてはアンケート回収率及び多様な処理事務負担において Web 方法より用紙方法が適当であると判断されている。質問項目については、現行の授業評価アンケート項目を参考にしたアンケート案が作成されている。また、ゼミについては、授業評価アンケート項目がなじまない場合があり、自由記述の処理も含めたさらなる検討が必要とされる。

(2) アンケート実施率（出席率）向上

受講数に対し、その実施率（有効回答数を受講生数で割る。アンケート実施日の学生の出席率）が前期 **61.9%**、後期 **50.5%**と、**2009** 年度に比しても下がり、また後期の方が低い。実施率をどのようにして高めるのか。日頃の授業への学生の出席率を高める方策が求められている。

(3) 少人数科目のアンケート実施について

少人数科目の場合のアンケートの統計処理の有効性が疑問視されている。**2009** 年度は、アンケート実施数 **9** 名以下の場合、前期 **45** 科目、後期 **22** 科目、**5** 名以下の場合、前期 **32** 科目、後期 **51** 科目、**2** 名以下の場合、前期 **8** 科目、後期 **24** 科目であった。履修登録少人数科目のアンケート実施については検討されなければならない。（前年度ママ）

(4) アンケート質問項目の精選とデータ処理について

質問項目については、これまで実施してきたアンケート項目を継承したかたちで進められていた。どの質問項目が必要か、これまでのアンケート結果によってこれらを精選する必要がある。たとえば、**2008** 年度では自由記述の質問がないかわりに質問項目 **12** を設けて回答 **3** つ選択させていたが、質問 **13** の自由記述が設けられたので質問 **1 2** との関係についての検討がある。また、質問 **1** から **11** については、学生自身の自己評価と教員評価との質問のバランス、及び、各質問項目の関係についての見直しが必要と思われる。そして、質問のデータ処理についての検討が必要であろう。たとえば、**2009** 年度に新設した質問項目の場合については、シラバスに関する質問 **3** と質問 **D** とのクロス集計の結果、その他関連のある質問項目とのクロス集計処理や、質問 **13** の自由記述（「良かった点」「改善点」）の有効な処理方法によって自由記述内容をデータとして残していくことが課題である。さらに、アンケート結果からみた各質問項目のクロス集計による関連についての検討がある。（前年度ママ）

(5) アンケート結果の公表について

授業評価アンケートの結果の公表は、**2007** 年度から授業評価アンケートの結果報告書を作成し、教員に配布するとともに、大学のホームページで公開している。**2010** 年度の場合も、同様の措置をとる。また、授業評価アンケートの結果については、各教員がその結果を生かしていくために、**2008** 年度から授業評価アンケート結果についての「現状の説明」と「改善点」に分けて考察し、それを **PDF** ファイルにしている。**2010** 年度もこの「結果の考察」を実施し、**PDF** ファイルを作成している。「結果の考察」の **PDF** ファイルは、**2008** 年度より学内のホームページに掲載し学生も見られるようにしている。**2010** 年度の場合も、同様の措置をとる。「結果の考察」**PDF** ファイルの大学のホームページ公開については、これの冊子作成と同様、検討課題となっている。

(6) 「アンケート結果」と「結果の考察」のまとめについて

アンケート結果は、質問ごとの 5 段階回答率とその平均値の基本統計表、この平均値の棒グラフ、質問 D と質問 3 のクロス集計表として、学部別、教員別、科目別に報告書を作成している。また、別に、このアンケート結果と自由記述のアンケート内容を参考資料として各担当教員が執筆する「結果の考察」の PDF ファイル（アンケート結果の平均値、現状の説明、改善点が記載）を作成している。しかし、これは冊子にしていない。「結果の考察」の PDF ファイル作成は、学生と教員の双方向のやりとりが必要であるとして、教員が授業改善を考え、学生がアンケート結果を見られるために 2008 年度から開始されている。これを引き継いだ 2010 年度では、担当教員に配布される統計処理された「アンケート結果」と担当教員が執筆する「結果の考察」の PDF ファイルを一つにした報告書の作成が検討課題となっている。

以上